

09 小児科研修プログラム

I 一般目標 (GIO)

小児疾患の診断と治療に必要な知識および基本的手技を習得するとともに、患者およびその養育者との良好な人間関係を保つ姿勢を身につける。

II 経験目標 (SBO s) (各項目の※は必修項目、)

A 経験すべき診察法・検査・手技

1. 医療面接

- 1) 医療面接におけるコミュニケーションのもつ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身につけ、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる。
- 2) 患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー）の聴取と記録ができる。
- 3) 患者・家族への適切な指示、指導ができる。

2. 基本的な身体診察法

病態の正確な把握ができるよう、全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記載するために、

- 1) 小児の診察（生理的所見と病的所見の鑑別を含む）ができ、記載できる。
- 2) 精神面の診察ができ、記載できる。

3. 基本的な臨床検査

病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。

(A)：自ら実施し、結果を解釈できる。その他：検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。

- 1) 一般尿検査（尿沈渣顕微鏡検査を含む）※
- 2) 便検査（潜血、虫卵）※
- 3) 血算・白血球分画 ※
- 4) 血液生化学的検査 ※
- 5) 血液免疫血清学的検査 ※
- 6) 細菌学的検査・薬剤感受性検査 ※
- 7) 髄液検査 ※
- 8) 単純X線検査 ※

4. 基本的手技

基本的手技の適応を決定し、実施することができる。

- 1) 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保）を実施できる。※
- 2) 採血法（静脈血、動脈血）を実施できる。※
- 3) 穿刺法（腰椎）を実施できる。※
- 4) 局所麻酔法を実施できる。※

5. 基本的治療法

基本的治療法の適応を決定し、適切に実施することができる。

- 1) 療養指導（安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備を含む）ができる。
- 2) 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療（抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱薬、麻薬、血液製剤を含む）ができる。
- 3) 基本的な輸液ができる。

6. 医療記録

チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理することができる。

(E)：自ら行った経験があること

- 1) 診療録の作成 ※ (E)
- 2) 処方箋・指示書の作成 ※ (E)
- 3) 診断書の作成 ※ (E)
- 4) 紹介状、返信の作成 ※ (E)

7. 診療計画

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価することができる。

- 1) 診療計画（診断、治療、患者・家族への説明を含む）を作成できる。
- 2) 診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し活用できる。
- 3) 入退院の適応を判断できる
- 4) QOL（Quality of Life）を考慮にいたった総合的な管理計画（リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む）へ参画する。

B 経験すべき症状・病態・疾患

1. 頻度の高い症状

- 1) リンパ節腫脹 ※ R
- 2) 発疹 ※ R
- 3) 発熱 ※ R
- 4) 結膜の充血 ※ R
- 5) 呼吸困難 ※ R
- 6) 咳・痰 ※ R
- 7) 嘔気・嘔吐 ※ R
- 8) 腹痛 ※ R
- 9) 便通異常(下痢、便秘) ※ R

2. 緊急を要する症状・病態

- 1) 急性感染症
- 2) 急性中毒 ※
- 3) 誤飲、誤嚥

3. 経験が求められる疾患・病態

(A)疾患については入院患者を受け持ち、(B)疾患については、外来診療または受け持ち入院患者（合併症含む）で自ら経験すること

- 1) 脳炎・髄膜炎

- 2) 湿疹・皮膚炎群（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎）※（B）
- 3) 皮膚感染症 ※（B）
- 4) 呼吸器感染症（急性上気道炎、気管支炎、肺炎）※（A） R
- 5) 閉塞性・拘束性肺疾患（気管支喘息、気管支拡張症）※（B）
- 6) ウイルス感染症（インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎）※（B）
- 7) 細菌感染症（ブドウ球菌、MRSA、A群レンサ球菌、クラミジア）※（B）
- 8) アレルギー疾患 ※（B）
- 9) 小児けいれん性疾患 ※（B）
- 10) 小児ウイルス感染症（麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ）※（B）
- 11) 小児細菌感染症
- 12) 小児喘息 ※（B）
- 13) 先天性心疾患

C 特定の医療現場の経験

1. 予防医療

予防医療の現場を経験し※、予防接種を実施できる。

2. 小児・成育医療

小児・成育医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、小児・成育医療の現場を経験する ※

- 1) 周産期や小児の各発達段階に応じて適切な医療が提供できる。
- 2) 周産期や小児の各発達段階に応じて心理社会的側面への配慮ができる。
- 3) 虐待について説明できる。
- 4) 学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参画できる。
- 5) 母子健康手帳を理解し活用できる。

III 方略 (LS)

1. 研修の場は、小児科外来、予防接種センター、小児科病棟（4F）での診療である。
2. 研修の指導にあたるのは、外来においては各曜日の外来担当医であり、病棟においては各曜日の回診担当医および受持ち患者の主治医である。
3. 研修医は副主治医として、主治医とともに入院患者を受け持つ。
4. 研修医は主治医の指導のもとで、受け持った患者の診療に直接携わる。

A 病棟における研修

- (1) 病棟回診に同伴し、必要に応じて診察の介助あるいはカルテの記載を行う。
- (2) 入院受持ち患者の診察は毎日行い、SOAP形式に従って所見をカルテに記載する。
- (3) 主治医とともに、受け持ち患者の検査や治療計画の立案を行う。
- (4) 患者またはその養育者の許可が得られれば、主治医（またはこれに代わる指導医）の監視のもとで、受持ち患者の検査あるいは治療を自ら行う。
- (5) 週1回の病棟カンファレンスに参加し、受持ち患者のプレゼンテーションを行う。
- (6) 受け持ち患者が退院した際には、退院サマリーを作成する。

B 外来における研修

- (1) 新患については可能な限り予診を担当し、その結果をカルテに記載する。
- (2) 外来担当医に同伴し、必要に応じて診察の介助あるいはカルテの記載を行う。
- (3) 患者またはその養育者の許可が得られれば、外来担当医の監視のもとで、外来検査および治療を自ら行う。
- (4) 予防接種センターにおいて、予防接種の種類、適応、接種スケジュールを習得する。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土(第1のみ)
午前	外来研修 (一般外来)	病棟研修	予防接種 センター	外来研修 (一般外来)	外来研修 (一般外来)	外来研修
午後	病棟研修	乳児健診	外来研修 (慢性疾患)	外来研修 (慢性疾患)	カンファレン ス	

指導体制

責任指導医：渡邊修大

上級医：関屋由子、江崎可絵、三輪田俊介、稗田芙蓉太、鈴木水鳥

病棟師長：内窪 佳代

IV 評価 (EV)

1. 研修医評価票の各項目につき、指導医が評価を行う。
2. 経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態について病歴要約で履修状況を確認する。